

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	有限会社 歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	愛媛県松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「笑顔で自分らしく楽しい暮らし」の介護理念の基、入居者一人ひとりの状況に応じた日常生活を送っていただいている。ホームでの生活を楽しんでいただけるように、季節にちなんだ行事を行ったり、入居者の方の要望を少しでも満たせるように、個別援助などにも力を入れている。又、地域に根ざした環境作りを心がけ、地域での催し物への参加、ホームでの行事や勉強会に地域の方を招いたり、地域の中で孤立する事のないように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会や民生委員の協力的な地域であり、地域住民の協力を得て防災訓練を実施したり、事業所で医療や介護の勉強会を定期的に開催するなど、地域における介護の拠点となっている。また、利用者も地域のいきいきサロンに毎月参加するなど、地域交流を積極的に行い、代表、管理者、職員全員で地域密着型サービスとしての意義を理解し取り組んでいる。今年度は、利用者一人ひとりの希望や要望にあった個別ケアサービスの提供に力を入れており、記録の整備や職員数にも配慮し、代表、管理者と職員が話しやすい雰囲気の中で協力して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

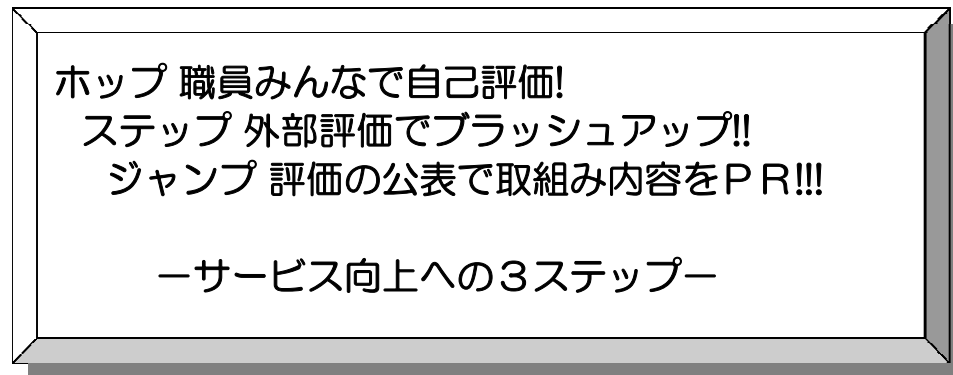
※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。



事業所名	グループホームあゆみ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	高須賀 幸子
評価完了日	23 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいたケアプランを作成、実施について度々職員会議等で話し合い、入居者、ご家族の想いや気持ち反映出来るよう、職員全員で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 基本理念をもとに「笑顔で自分らしく、楽しい暮らし」「好きな事ができる時間をもてる」をサービスの指針として掲げ利用者や家族に説明し、事業所全体で実践できるよう日々取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 盆踊り、いきいきサロン等地域が主催する行事に参加している。又、ホームで行う夏祭り、クリスマス会、花見には地域の方を招いて交流の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 町内会、民生委員が協力的な地域であるため、開設当初から地域との交流が積極的に行われている。特に地域の高齢者の交流の場である「いきいきサロン」は、ホームの入居者も参加しやすいよう配慮されており、毎月楽しく参加できている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域で行っている認知症の勉強会の講師等を通して、地域の人々に認知症の理解をしてもらい、支援の方法等を必要に応じて相談にのっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでのサービス内容・行事等の報告及び意見の汲み上げを行っている。行事の時には地域の方より提案を頂いたり、備品の貸し出しも協力して頂いている。年に1度は防災訓練を会議の日に計画し参加して頂き災害時の協力体制の整備にも繋げている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて、地域との交流を積極的に行っている。防災についても度々話し合わせ、チェックリストを使ってホーム内を点検してもらう等、環境整備にも協力してもらっている。また、自己評価や外部評価の結果とともに「目標達成計画」「サービス評価の実施と活用状況」も報告しておりサービスの質の向上に活かしている。	地域交流の取り組みは一定の成果を得ており、引き続き継続して行くことを希望する。運営推進会議の中でサービス内容や行事等の報告、意見交換がされているが、具体的なケアの内容や実施状況についても意見交換を行いサービスの質の向上に活用する事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、市社協等に介護事故の報告や相談・助言を仰ぎ、協力関係の構築に努めている。地域包括支援センターの開催するセミナーや勉強会に参加している。	
			(外部評価) 地域包括支援センターが開催する「サポーター講座」を活用している。地域のグループホームが協力して開催する講演会の準備の際にも気軽に相談に応じてもらっている。転倒事故等があった場合は速やかに報告し、助言を受け適切に対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は夜間以外は常に開放しており、出入りは自由に出来るようにしている。ベッド上において、危険が伴う場合については、ご家族との話し合いを持ち、同意があればベッド柵での拘束はある。定期的に勉強会を開催し、職員の理解・意識向上に努めており、拘束時間は出来る限り少ない時間にし、不用と判断後は中止している。	
			(外部評価) 現在身体拘束は行っていない。失踪事故が起こらないよう運営推進会議でも対策について話し合っている。現任職員が新任教育計画書に沿って新任職員の教育をすることで、現任職員も身体拘束や虐待について改めて考えるよい機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議、担当者会議の時に勉強会を開催し、理解出来るように努めている。マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員会議、担当者会議の時に勉強会を開催し、理解出来るように努めている。マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度管理者が説明を行い、質問を受けている。必要に応じて書面を作成し、個別に対応している。職員に対しても勉強会を持ち、改訂内容を伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られたときは必ずご家族と話をすることを心掛け、普通の会話の中から、ご意見、ご要望を汲み取れるように注意している。無記名の「ホーム長直行便」のハガキを設置・定期的にご家族に送付し、意見の聞き取りに努めている。 (外部評価) 家族会を平日の夜間に開催する事で参加者が増加している。個別援助の実施状況、達成状況を報告したり、今後の計画の希望について意見交換を行っている。また、アンケート等定期的に家族に送付しサービスの評価、意見や要望を聞き取れるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に「改善シート」を配布し、意見や提案を聞く体制を整えている。職員会議に必ず一人ひとりが意見を持ち参加するようにし、発表しやすい環境を作り、問題があれば改善するようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表や管理者は、ターミナルケアの夜勤時の不安解消や個別ケアのために必要な人員確保、書類様式の変更等、職員の意見や要望を十分に聴き、業務改善に活かしている。また、トイレトペーパーの位置や食堂の椅子の変更等職員の気づきやアイデアを積極的に取り入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員確保、業務調整はその都度柔軟に調節してる。個々の職員がやりがいを持てるように給与水準も少しづつあげている。自己評価し、「楽しく仕事する為に」をテーマで行い、各自の向上心を持って、働けるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人はプリセプターシップをとっている。毎月勉強会を開催し、全職員が参加出来るように計画している。必要であれば個別に対応している。外部研修にも参加の機会を作れるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 外部から講師を招き、他のグループホームと合同で勉強会を行ったり、親睦会などを開催している。又、行事などにも参加して頂いている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者本人又はご家族から生活をしていく上での希望や悩みを聞き、ケアプランに取り入れ全職員が把握するよう努めている。相談から利用に至るまでに本人又はご家族に出来る限り、情報を集めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時に、ご家族が思っている事や不安な事を傾聴し、全職員が受け止めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」何が必要か、ご家族と本人と話し合いながら、サービス内容の検討を行い、他のサービスの紹介、説明をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 得意な事、好きな事等の手伝いをさせていただきながら、会話を重ね、出来る限り職員と密な時間を共有する事で安心していただけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は一緒にゆっくり過ごしていただける環境を整えている。又、行事等に参加していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 各方面の方から面会もあり、県外の方で面会にこられない方は電話やハガキにて、場合によってはハガキを代筆し支援に努めている。 (外部評価) 利用者の心身の状態や希望を聞き取り、希望があれば対応している。職員の思い込みや押し付けがないよう、利用者の気持ちや様子を観察している。入居の年数が長くなればホームに入居してからの友達もおり、新たな関係も継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングをホームポジションとし食事以外でも他者との交流がはかれるように努めている。また、散歩やレクリエーションを通して他者との関係の構築をはかっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もご家族と連絡を密に取り、本人の様子など相談を受けることにより、関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の関わりの中で信頼関係を築き、要望を聴き取る様に努めている。コミュニケーションのとりにくい入居者には寄り添い、表情や態度から思いを把握している。ご家族にはホーム便りを発行し生活の様子を知らせ面会時には要望を聴きとっている。 (外部評価) アセスメント様式を改善し、利用者の「したいこと」「安心、快」「心身の力の発揮」「安全、健やか」「家族への思い」が目に見えるよう工夫し、結果を個別ケア計画に反映することで、その人らしい生活の支援ができるよう取り組んでいる。利用者が縫った雑巾を地域の小学校で使ってもらうことは、利用者にとって喜びや励みになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に管理者がご家族や本人からこれまでの暮らしなどの聞き取りを行い、入所されてからも関わりの中から本人の思いを聞きだせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録やセンター方式などを使用し、1日の流れを把握している。生活の中でも、本人の得意な事を見つけ出し、それをさせていただくことにより、自信回復などにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各入居者に担当をつけ担当者がケアマネと共にプランを作り、全職員で検討している。状態の変化に応じてその都度見直しをしている。	
			(外部評価) 介護計画の実施状況が分かりやすい様式に記録されており、毎月モニタリングしている。3か月ごとに評価しできる限り家族にも参加してもらってカンファレンスを行っている。生活記録や、申し送りノート等を利用して職員は情報を共有している。医療の必要性が高い利用者の介護計画は主治医に相談し助言を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録は生活記録にしている。気付いた事やケアのヒント等は申し送りノートに記入している。またプランの評価を個別に残し、会議の時に情報を交わし活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良時等の通院支援などは必要に応じて家族にかわり支援している。又、個別の希望に対しては個別援助としてご家族と連携をとりながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のいきいきサロンへの参加や夏祭りへの参加、又ホームの夏祭りやクリスマス会等への参加を地域の方々から協力していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 協力医療機関とは別の病院で受診を希望をされる場 合、医療機関と相談し往診を受けたり、ご家族の協力 を得て受診していただいている。看護師が対応し連携 医療機関の確保はしている。	
			<p>(外部評価)</p> ほとんどの利用者が協力医療機関を主治医にしてお り、毎月2回訪問診療を受けている。24時間必要時 に看護師と連絡がとれる医療連携体制の整備や代表が 看護師であることは、利用者及び家族にとり安心と なっている。歯科も往診を受けることができる。通院 には家族の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 日常的に入居者の健康状態をホーム内の看護師に報告 し、必要に応じた支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院見舞い、ご家族の希望を聞き相談を行っている。 長期入院により重度化しないように病院と連携を取り 経過の確認をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ご家族と十分に話し合いながら、本人やご家族の気持 ちを大切に、安心感が持てるように対応している。 急変時にはすぐに対応していただけるように事前に医 療機関との連携もとれている。	
			<p>(外部評価)</p> 関係者全員が方針を統一し、利用者の状態に応じて家 族に説明し同意を得ながら取り組んでいる。昨年1名 のターミナルケアを経験しており、現在1名のケアに 取り組んでいる。家族にも泊り込みの協力をお願いし ている。また、必要に応じて代表も泊り込むようにし ており利用者の状態に合わせた柔軟な対応をしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し、職員全員に指導を行っている。又、オンコール体制をとり、夜間の急変時などにも対応している。又AEDの設置もしており定期的に訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力で年2回の防災訓練を行っている。災害時マニュアルを作成し緊急時にスムーズに対応出来るようにしている。地域の方の協力もあり災害時には連絡すると応援に来ていただけるようになっている。 (外部評価) 防災対策について、運営推進会議でも何度も検討している。年1回は運営推進会議のメンバーにも避難訓練に参加してもらっている。災害に備えた備品等も準備している。火災通報装置の取り扱い、AEDの使用訓練等職員の研修も行っている。AEDはホームに設置しており地域の方も使用できるようにしている。風水害、地震等の災害マニュアルも作成している。	避難訓練後の意見交換で「年2回の実施では不十分ではないか」との意見も出ており、いろいろな場面を想定した訓練や設備の使い方の訓練等が必要である。ホームが継続してできる計画的な自主防災訓練や研修を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないような配慮したケアや、声掛けを行っている。一人ひとりの性格やその時々状況に合わせた対応、声掛けに配慮している。 (外部評価) 個人情報の管理、取り扱いについては、利用者や家族に入居時説明して同意を得ている。職員は定期的に研修を受けたり、皆で話し合ったり注意し合ったりしている。普段の声かけ等も介護の専門職として節度を持った対応ができるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望が引き出せるようコミュニケーションをとり担当者が入居者の意欲を引き出すようなサービス計画をたて、全職員が実践に向けて協力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の体調や気分に合わせて日々支援している。レクリエーション・行事等では声掛けを行い、拒否されれば無理や強制はせず、希望に応じた支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝洗顔、整髪、髭剃り等身だしなみが整うよう支援している。定期的に理・美容師の来訪があり、散髪もしている。清潔な衣類を身につけるよう声掛けし、日々着用する衣類も入居者自身が選び、その人らしく着こなせるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) キザミ食、ミキサー食を取り入れ、入居者に合わせて対応している。好みの食事が出来るようにメニューも考えている。食事前後の片付け、下準備などは、職員と共に行い、野菜の収穫などで食事への意欲へと繋げている。 (外部評価) 食事についてのアンケートは入居1か月後に行っている。その後も会話の中で食べたいもの等、意見を聞き取るようにしている。日々の食事は調理担当職員が作っているが、スイーツバイキングや季節のもの、ホームの畑で採れたものなど、楽しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事だけでは十分に吸収できない方については主治医と相談し必要に応じて栄養補助食の処方を受け対応している。食事量、水分量等はチェック表に記録し、1日の必要量が摂取できているか毎日記録している。それぞれの方の好みの飲み物も把握し、飲みたいものが飲めるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは誤嚥性肺炎の重要な予防方法となる為、毎食後口腔ケアの声掛けを行い、必要な方は介助し清潔保持に努めている。自力でのうがい等が不可能な方は介助にて口腔清拭を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表などを使用し、個々の排泄パターンを把握し、声掛けトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) トイレは各ユニット4か所あり、車いすの利用者も介助する事ができる広さが確保されている。手すりも設置しており利用者の状態に応じた対応ができる設備が整っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に繊維の多い物を取り入れたり、リハビリ体操や散歩などの運動の場を取り入れ、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者に応じて介助方法、介助人数を変え、個々に応じて入浴回数、順番を考慮し柔軟に対応している。機械浴を設置しており、重度化しても安楽に入浴を楽しめるようにしている。	
			(外部評価) 脱衣室や浴室は広く、ゆっくりと介助することができる。設備も整っており重度化しても安心して入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 使い慣れた寝具等を使用する事によって、本人が快適に安心して過ごす事が出来るようにしている。日中なども個々に合わせて居室で横になる時間を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に配薬箱を使用している。服薬時は手渡し飲み込みの確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の楽しみややりたいことを理解した上で、家事手伝い、畑仕事など、ケアプランとして実施し、役割を持って過ごして頂ける様に支援し、充実した日常を送っていただけるよう年間行事など季節に応じた催しや、個別ケアや食の楽しみなど支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には散歩に出掛けたり、定期的な外出、買い物行事を企画している。また、個別ケアとして本人の行きたい所へ出掛けたり、地域の行事への参加など戸外に出掛けられるような支援をしている。	
			(外部評価) 毎月地域のいきいきサロンへ参加したり地域の他のグループホームの行事に参加するなどしている。また、利用者と担当職員による個別の外出等も積極的に実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、小遣い程度所持し、出張パン屋の来訪時や外出の買い物時に使っている。大きな買い物時、管理できない方はホームで立て替えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を読んだり、電話を掛ける場合は、居室でゆっくり時間が取れるようにしている。自力では困難な場合は、1対1で対応し、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の塗った塗り絵や入居者同士で協力して作った作品をリビングや玄関に飾り、共通の話題が増えるようにしている。入居者それぞれの得意な事、好きな事に合わせて畑や観葉植物、日めくりカレンダーを設置するなどの工夫をしている。	
			(外部評価) 廊下、トイレ、浴室、洗面所など十分スペースが確保されており車いすの利用者も使用しやすい。対面式の台所や食堂兼居間は明るく、利用者が芸術療法やレクリエーション等を行ったり、職員と会話を楽しんだり思い思いに過ごせる場所となっている。広い駐車場と家庭菜園がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共通空間の中にも、個人に合わせて座りやすい椅子を用意し、入居者同士の相性を考慮して座位置を決め、過ごしやすい居場所になるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具やテレビ等、馴染みの物を使用されたり、本人が絵や写真、家具をレイアウトし、自分好みの居心地の良い部屋になるように工夫している。	
			(外部評価) 電動ベッド、木製ロッカー、チェスト、冷暖房設備が設置され整理整頓された清潔感のある居室である。床にマットレスを敷いている方もおり、利用者ごとの過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室には手すりを設置しており、手すりを使用すればたつ事ができる方の助けになっている。建物には必要な場所にスプリンクラーなどが設置しており、利用者の安全を確保する手段となっている。又必要な方には、車椅子、歩行器を準備し、体調に合わせて利用でき、安全かつ自立できるように努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	有限会社 歩未
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・曜日別にレクリエーションのプログラムを作成し、生活リズムに組み込んでいる。又、個別援助での生活の活性化を図るように支援している。
ケアプランなどの目標を全職員が周知し、毎日チェックを行い、ご本人の想いを理解し、プランの評価に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会や民生委員の協力的な地域であり、地域住民の協力を得て防災訓練を実施したり、事業所で医療や介護の勉強会を定期的に開催するなど、地域における介護の拠点となっている。また、利用者も地域のいきいきサロンに毎月参加するなど、地域交流を積極的に行い、代表、管理者、職員全員で地域密着型サービスとしての意義を理解し取り組んでいる。今年度は、利用者一人ひとりの希望や要望にあった個別ケアサービスの提供に力を入れており、記録の整備や職員数にも配慮し、代表、管理者と職員が話しやすい雰囲気の中で協力して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあゆみ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 23 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいたケアプランを作成し実施について会議等で話し合い、入居者・ご家族の想いが反映出来るよう職員一人一人が考え実施している。</p> <p>(外部評価) 基本理念をもとに「笑顔で自分らしく、楽しい暮らし」「好きな事ができる時間をもてる」をサービスの指針として掲げ利用者や家族に説明し、事業所全体で実践できるよう日々取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 盆踊り、いきいきサロン等地域の主催する行事に参加している。又夏祭り・クリスマス会・花見には地域の方を招いて交流の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 町内会、民生委員が協力的な地域であるため、開設当初から地域との交流が積極的に行われている。特に地域の高齢者の交流の場である「いきいきサロン」は、ホームの入居者も参加しやすいよう配慮されており、毎月楽しく参加できている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域で行っている認知症の勉強会の講師等を通して、地域の人々に認知症の理解をしてもらい、相談に乗って支援の方法を伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームでのサービス内容・行事等の報告を行い意見や助言を頂いている。行事の時には地域の方から備品の貸し出しにも協力して頂いている。年に1度は防災訓練を会議の日に計画し参加して頂き、災害時の協力体制の整備にも繋げている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて、地域との交流を積極的に行っている。防災についても度々話し合われ、チェックリストを使ってホーム内を点検してもらう等、環境整備にも協力してもらっている。また、自己評価や外部評価の結果とともに「目標達成計画」「サービス評価の実施と活用状況」も報告しておりサービスの質の向上に活かしている。	地域交流の取り組みは一定の成果を得ており、引き続き継続して行くことを希望する。運営推進会議の中でサービス内容や行事等の報告、意見交換がされているが、具体的なケアの内容や実施状況についても意見交換を行いサービスの質の向上に活用する事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、市社協等に介護事業の報告や相談・助言を仰ぎ協力関係の構築に努めている。地域包括支援センターの開催するセミナーや勉強会に参加している。	
			(外部評価) 地域包括支援センターが開催する「サポーター講座」を活用している。地域のグループホームが協力して開催する講演会の準備の際にも気軽に相談に応じてもらっている。転倒事故等があった場合は速やかに報告し、助言を受け適切に対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外は玄関は常に開放しており、出入りは自由になっている。ベッド上において、危険の伴う場合は、ご家族と話し合いを持ち同意があればベッド柵での拘束はある。定期的に勉強会を開催し職員の理解・意識向上に努めている。不要と判断後はすぐに禁止している。	
			(外部評価) 現在身体拘束は行っていない。失踪事故が起らないよう運営推進会議でも対策について話し合っている。現任職員が新任教育計画書に沿って新任職員の教育をすることで、現任職員も身体拘束や虐待について改めて考えるよい機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意し、発見時は原因を探り又ご家族へ報告を行っている。	(自己評価) 外部研修に参加したり、定期的に勉強会を開催し、意識の向上に努めている。小さな外傷も見過ごさないように注意し、発見時は原因を探り又ご家族へ報告を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的な勉強会の開催、又マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度管理者が説明を行い質問を受けている。必要に応じ書面を作成し、個別に対応している。職員に対しても勉強会を持ち、改訂内容を伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見は職員が日頃から気にかけている。ご家族が面会に来られた時に近況を伝え、意向や要望をお聞きし、くみ取れるよう注意している。無記名の「ホーム直行便」のハガキを設置・定期的にご家族へ送付し、意見の聞き取りに努めている。	
			(外部評価) 家族会を平日の夜間に開催する事で参加者が増加している。個別援助の実施状況、達成状況を報告したり、今後の計画の希望について意見交換を行っている。また、アンケート等定期的に家族に送付しサービスの評価、意見や要望を聞き取れるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に「改善シート」を配布し、意見や提案を聞く体制を整えている。職員会議に必ず、一人ひとりが意見を持ち参加するようにし発表しやすい環境を作り、問題があれば改善するようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表や管理者は、ターミナルケアの夜勤時の不安解消や個別ケアのために必要な人員確保、書類様式の変更等、職員の意見や要望を十分に聴き、業務改善に活かしている。また、トイレトペーパーの位置や食堂の椅子の変更等職員の気づきやアイデアを積極的に取り入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の確保、業務調整はその都度柔軟に調整している。個々の職員がやりがいを持てるように給与水準も少しずつあげている。自己評価し「楽しく仕事をする為に」をテーマで行い各自の向上心を持って働けるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人はプリセプターシップをとっている。毎月勉強会を開催し、全職員が参加できるようにしている。又個人目標を立てて達成出来るように努めている。外部研修にも参加の機会を作れるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他グループホームと行事や勉強会を通して交流を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者本人又はご家族から生活をしていく上での希望や悩みなどを聞きケアプランに取り入れ全職員が把握するように努めている。相談から利用に至るまでに本人又はご家族に出来る限り情報を集めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時ご家族が困っている事や不安な事を傾聴し、安心して生活ができる為にはどうしたら良いか職員が話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」何が必要かご家族と本人と話し合いながら、その人にあったサービスを(グループホームに適しているかどうか)検討を行い、他のサービスの紹介、説明をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事はできるだけ行ってもらい、手伝える事は環境を整えて協力してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の報告相談等行っている行事では花見、夏祭り、クリスマス会など一緒に参加できる環境づくりをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族や友人、知人等面会時に来られた時は居室やリビングでゆっくり過ごしてもらえよう心がけている。地域との交流で馴染みの人も出来ており交流の場を設けている。 (外部評価) 利用者の心身の状態や希望を聞き取り、希望があれば対応している。職員の思い込みや押し付けがないよう、利用者の気持ちや様子を観察している。入居の年数が長くなればホームに入居してからの友達もおり、新たな関係も継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングをホームポジションとして食事や体操以外でも他者との交流がはかれる様に努めている。また、散歩やレクリエーションを通して他者との構築をはかっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もご家族と連絡を密に取り、本人の様子など相談を受けることにより関係を断ち切らない様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の関わりの中で信頼関係を築き、要望を聴き取る様に努めている。コミュニケーションのとりにくい入居者には寄り添い、表情や態度から思いを把握している。ご家族にはホーム便りを発行し生活の様子を知らせ、面会時には要望を聴き取っている。 (外部評価) アセスメント様式を改善し、利用者の「したいこと」「安心、快」「心身の力の発揮」「安全、健やか」「家族への思い」が目に見えるよう工夫し、結果を個別ケア計画に反映することで、その人らしい生活の支援ができるよう取り組んでいる。利用者が縫った雑巾を地域の小学校で使ってもらうことは、利用者にとって喜びや励みになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に管理者が、ご家族や本人からこれまでの暮らしなど聞き取りを行い入所されてからも関わりの中から本人の思いを聞きだせる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録やケアプランなどを使用し、本人の一日の流れを把握している。日頃の生活の中でも本人の得意な事を見つけ出し、それをしていただく事により自信の回復などに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランの見直しを本人の状態に合わせ他スタッフ、ご家族との話をもとに、本人本位のプラン作成に努めている。	
			(外部評価) 介護計画の実施状況が分かりやすい様式に記録されており、毎月モニタリングしている。3か月ごとに評価しできる限り家族にも参加してもらってカンファレンスを行っている。生活記録や、申し送りノート等を利用して職員は情報を共有している。医療の必要性が高い利用者の介護計画は主治医に相談し助言を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録に日々の様子を記入している。新しい情報や変化は申し送りノートに記入し、全職員が把握できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良等、その都度通院などの支援をしている。家族の希望により美容室などへの送迎もしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のいきいきサロンや夏祭りへ参加している。ホームの行事、夏祭り、クリスマス会等への参加も地域の方々にしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 協力医療機関とは別の病院で受診を希望される場合、 医療機関を相談し往診を受けたりご家族の協力を得て 受診してもらっている。看護師が対応し連携医療機関 の確保はしている。	
			<p>(外部評価)</p> ほとんどの利用者が協力医療機関を主治医にしてお り、毎月2回訪問診療を受けている。24時間必要時 に看護師と連絡がとれる医療連携体制の整備や代表が 看護師であることは、利用者及び家族にとり安心と なっている。歯科も往診を受けることができる。通院 には家族の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 日常的に入居者の健康状態をホーム内の看護師に報告 し必要に応じた支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院見舞い、ご家族の希望を聞き相談を行っている。 長期入院により重度化しないように病院と連携をとり 経過の確認をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ご家族と十分に話し合いながら、本人やご家族の気持 ちを大切にしながら安心感が持てるよう対応している。急変 時にはすぐ対応してもらえるように事前に医療機関と の連携もとれている。	
			<p>(外部評価)</p> 関係者全員が方針を統一し、利用者の状態に応じて家 族に説明し同意を得ながら取り組んでいる。昨年1名 のターミナルケアを経験しており、現在1名のケアに 取り組んでいる。家族にも泊り込みの協力をお願いし ている。また、必要に応じて代表も泊り込むようにし ており利用者の状態に合わせた柔軟な対応をしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、新人研修で必ず指導し実践力を育てている。入居者の予測できる急変や事故について話し合い、個別に指導を行っている。又、AEDも設置しており、定期的に訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導の下、防災訓練を行っている。災害時マニュアル、災害用グッズを備え、緊急時スムーズに対応できるようにしている。地域の方の協力もあり災害時には連絡すると応援に来ていただけるようになってきている。 (外部評価) 防災対策について、運営推進会議でも何度も検討している。年1回は運営推進会議のメンバーにも避難訓練に参加してもらっている。災害に備えた備品等も準備している。火災通報装置の取り扱い、AEDの使用訓練等職員の研修も行っている。AEDはホームに設置しており地域の方も使用できるようにしている。風水害、地震等の災害マニュアルも作成している。	避難訓練後の意見交換で「年2回の実施では不十分ではないか」との意見も出ており、いろいろな場面を想定した訓練や設備の使い方の訓練等が必要である。ホームが継続してできる計画的な自主防災訓練や研修を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの性格やその時の気分を配慮し、状況に合わせた声掛けを行っている。個人の尊厳を傷つけないよう職員全員で意識してケアしている。 (外部評価) 個人情報の管理、取り扱いについては、利用者や家族に入居時説明して同意を得ている。職員は定期的に研修を受けたり、皆で話し合ったり注意し合ったりしている。普段の声かけ等も介護の専門職として節度を持った対応ができるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を引き出せるようコミュニケーションを取り、担当者が入居者の希望に沿ったりサービス計画を立て全職員が協力して実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限り、個別の意思を優先しているが、リハビリ体操やレクリエーション、行事などADLの低下を防ぐ為にもなるべく参加していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪は理・美容師に来てもらったり、家人と行ってカットされている。化粧品を使用している人もおられる。衣類も季節やその人に合ったものを着られている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食品を取り入れ、見て、味わって季節を感じていただいている。職員と一緒に食事をし会話を楽しんでいる。 (外部評価) 食事についてのアンケートは入居1か月後に行っている。その後も会話の中で食べたいもの等、意見を聞き取るようにしている。日々の食事は調理担当職員が作っているが、スイーツバイキングや季節のもの、ホームの畑で採れたものなど、楽しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、一人ひとりの水分・食事量を確認、記録している。習慣、病状に合わせた食事形態、量を考え配膳している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け、見守りを行っている。必ず必要な場合は職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンリズムを日々チェックし、それらに応じ心掛けトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) トイレは各ユニット4か所あり、車いすの利用者も介助する事ができる広さが確保されている。手すりも設置しており利用者の状態に応じた対応ができる設備が整っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に繊維の多い食材を取り入れ提供し、水分摂取・運動を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者に応じて介助方法を変え個々に応じて入浴回数、順番、入浴日、入浴時間など柔軟に対応している。入浴を拒む人に対しては、時間の変更や声掛けを工夫している。	
			(外部評価) 脱衣室や浴室は広く、ゆっくりと介助することができる。設備も整っており重度化しても安心して入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況により、居室誘導で休んでいただいたり、リビングのソファで横になったりしていただいている。時には雑談にも応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に服薬ケースを使用している。職員支援のもと服薬している。症状変化の確認に努めており変化があると看護師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 植物の水やり、洗濯物たたみ等、本人の好みに合わせ役割を持って過ごしていただけるように支援している。又、年間行事など季節に応じた催しを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩に出掛けたり、定期的な外出行事を企画している。又個別ケアとして本人の希望している所へ出掛けたり、地域の行事への参加等、戸外に出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 毎月地域のいきいきサロンへ参加したり地域の他のグループホームの行事に参加するなどしている。また、利用者と担当職員による個別の外出等も積極的に実施されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、小遣い程度は所持しパンの購入時に使っている。大きな買い物時、管理できない方はホームで立て替えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を読んだり、電話を掛ける場合は、居室でゆっくり時間が取れるようにしている。自力では困難な場合は、1対1で対応し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の制作した作品を玄関やリビングに提示する事で共通の話題が増えるようにしている。リビング・洗面台・廊下には観葉植物や花を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。	
			(外部評価) 廊下、トイレ、浴室、洗面所など十分スペースが確保されており車いすの利用者も使用しやすい。対面式の台所や食堂兼居間は明るく、利用者が芸術療法やレクリエーション等を行ったり、職員と会話を楽しんだり思い思いに過ごせる場所となっている。広い駐車場と家庭菜園がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の椅子は個人に合わせて座りやすい椅子を用意し座位置は入居者同士の相性を考慮している。リビング洗面所スペースにはソファを設置しており入居者同士会話できるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なじみのある家具やテレビ等を使用されたり個人の趣味や生活スタイルに合わせて絵・写真・置物等、自由に飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 電動ベッド、木製ロッカー、チェスト、冷暖房設備が設置され整理整頓された清潔感のある居室である。床にマットレスを敷いている方もおり、利用者ごとの過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 杖歩行の方が椅子に安全に腰掛けれるように杖たてを付けている。	